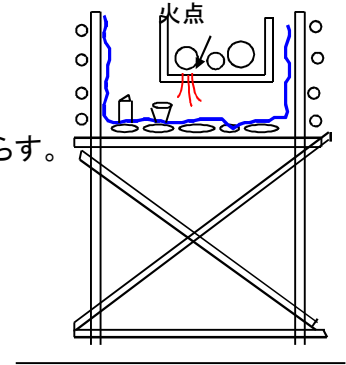


火 気 養 生 の 型 ・ 種 類

【A型養生】

[火点が風の影響を受けやすい屋外の場合]

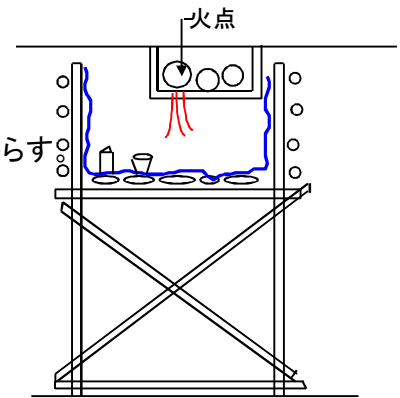
- * 4側面を火点より高くカーボンフェルト(耐炎繊維)又は防災シートで囲う。
- * 床面はカーボンフェルト(耐炎繊維)又は防災シートを敷き詰めて水で濡らす。
- * 必要に応じて、換気装置を設置するか、防塵マスクを着用する。
- * 火点の近くに消火器・消火用水バケツを準備する。



【B型養生】

[火点が風の影響を受けない室内等の場合]

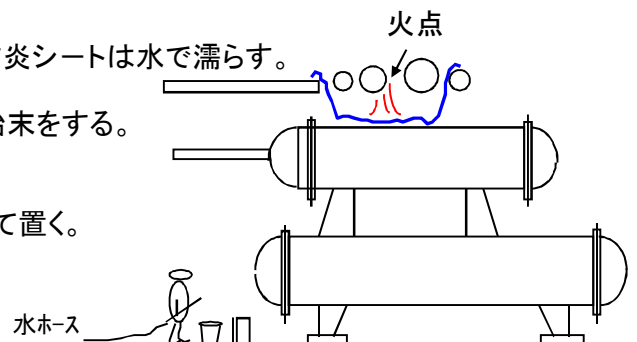
- * 4側面をカーボンフェルト(耐炎繊維)又は防災シートで囲う。
- * 床面はカーボンフェルト(耐炎繊維)又は防災シートを敷き詰めて水で濡らす
 - ① ピットあるいはマンホール、トラフ内に溶断片や火粉が落ちないように、当該部にカーボンフェルト(耐炎繊維)や防災シート又はトタン板等で覆いをする。
- * 火点の近くに消火器・消火用水バケツを準備する。



【C型養生】

[火気養生スペースが狭い場合(足場カーボンフェルト(耐炎繊維)又は防災シート等の設置が困難な場所)]

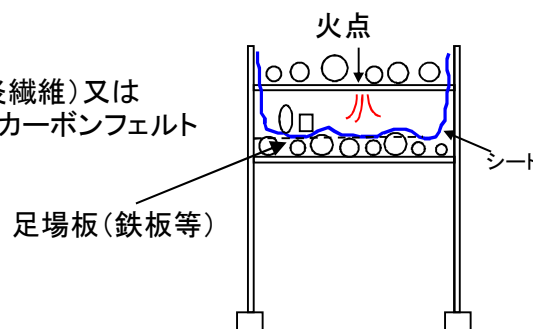
- * 火点直下の局部にカーボンフェルト(耐炎繊維)又は防災シートを広げて極力この部分で火の粉・溶断片を受ける。
- * カーボンフェルト(耐炎繊維)又は防災シートは足場材又は既設の配管や架台等で支える。
- * 火点の下の方のカーボンフェルト(耐炎繊維)又は防災シートは水で濡らす。
- * 監視人を配置し地上・床上に水を撒くなどして火の始末をする。
- * 監視人の近くに消火器・消火用水バケツ等を準備して置く。



【D型養生】

[火花の飛散がラックの範囲内に収まる場合]

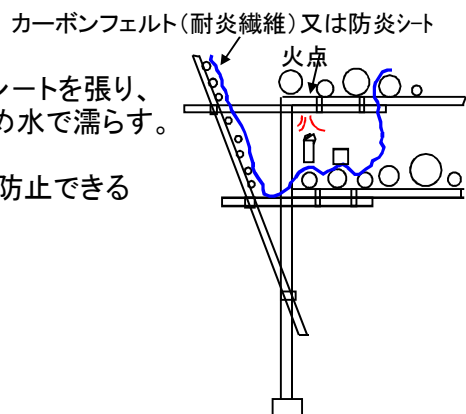
- * ラックの支柱・横梁等を利用して側面にカーボンフェルト(耐炎繊維)又は防災シートを張り、下面には 足場板(鉄板等)を敷きその上にカーボンフェルト(耐炎繊維)又は防災シートを敷き詰めて水で濡らす。
- * 火点の近くに消火器・消火用水バケツを準備しておく。



【E型養生】

[火花の飛散・落下範囲がラックより外にでる場合]

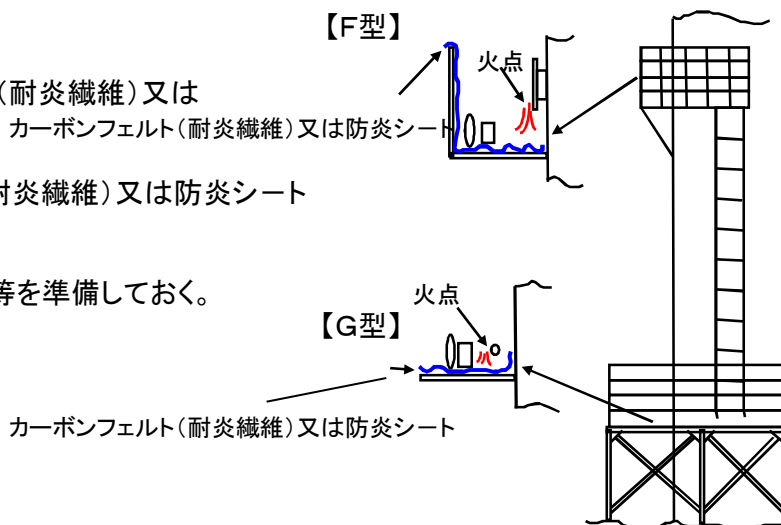
- * 張り出し足場を架設してカーボンフェルト(耐炎繊維)又は防災シートを張り、下面にはカーボンフェルト(耐炎繊維)又は防災シートを敷き詰め水で濡らす。
- * カーボンフェルト(耐炎繊維)又は防災シートは火の粉の飛散を防止できる範囲とする。
- * 火点の近くに消火器・消火用水バケツを準備しておく。



【F・G型養生】

[塔・槽・デッキ等の高い火点の場合]

- * 3～4側面及び床面にカーボンフェルト(耐炎繊維)又は防災シートを敷き水で濡らす。
- * 塔とデッキの間隙にカーボンフェルト(耐炎繊維)又は防災シートを詰めて水で濡らす。
- * 火点の近くに消火器・消火用水バケツ等を準備しておく。



【H型養生】

[混在作業の場合]

- * それぞれの持ち場で火花の飛散を防止する為、カーボンフェルト(耐炎繊維)又は防災シートで周囲を遮断する。
- * 下にある機器はカーボンフェルト(耐炎繊維)又は防災シートで養生して水で濡らす。
注) 電気・計装の操作盤、制御盤へはカバーをつけても水をかける事は原則として禁止。
- * 火点の近くに消火器・消火用水バケツを準備しておく。

【I型養生】

[建設工事等で作業場全体を区切る場合]

- * 既設の設備と区画する場合は架台等を利用し、杭・ステー等は省略できる。
- * 必要に応じ、下段側面は垂鉛引波板を使用する。

